

水戸葵陵高等学校医歯薬コース

2014年9月

医歯薬通信 **SANS FRONTIERES** vol.17

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryo.ac.jp/>

はじめに

医歯薬コースの12年間での入学者数は536名で、男子が276名、女子が260名である。在校生についても、クラスによってばらつきがあるものの、各学年とも男女数がほぼ同数である。それ故、当然のことであるが、文化祭などの学校行事においても女子生徒がリードしている姿をよく目にする。既に社会人となって活躍している卒業生からの報告も女子からのものが多いようである。

しかしながら、今日の日本の社会において、女性が活躍するということは決して容易なことではない。このような状況について、次のような「話」とともに朝日新聞の「天声人語」が紹介している。

父親と息子が車に乗っていて事故を起こし、大けがをして別々の病院に運ばれた。すると、息子の運ばれた病院で出てきた医師が「これは私の息子です」と言う。はて、一体どうしたことか。首をかしげた方もおいでだろうが、答えは簡単、医師は母親だった。医師イコール男性という思い込みが、簡単な問題を難問にすると、織田正吉著『笑いのこころユーモアのセンス』（岩波書店）は説く。

男女平等度について、世界経済フォーラムによれば、日本は昨年、136カ国中105位。一方、5年連続で1位なのがアイスランドである。この国の、女性の元大統領は「女性の能力は金鉱」と言う。日本でも、安倍政権が女性登用に意欲を見せ、「女性が輝く日本の実現」を掲げている。このような社会の実現を願うとともに、本校での3年間を活かしながら、女子生徒の皆さんが実社会においてますます輝きを増すことを期待する。

文化祭・モザイクアート

平成26年6月21日(土)、22日(日)に第17回葵陵祭が開催されました。医歯薬コースでは今年も文化祭でモザイクアートの作成に取り組みました。今年はワールドカップに挑んだ日本代表へのエールを送るために、かいさいこくであるブラジルの国旗と、日本代表の優勝への期待を込めてトロフィーとボールをテーマにしました。今回医歯薬コース文化祭実行委員としてモザイクアート制作を経験し、全員で一つのものを作り上げることの難しさと、その達成感の素晴らしさを改めて実感しました。この経験をこれからの生活に活かしていきたいです。(文化祭実行委員)



看護の日

平成26年5月24日(土)、茨城県立こども病院において『看護の日スペシャルイベント』が催され、本校の1年生が参加しました。

小児科医の先生をはじめ看護局の方からも貴重なお話を聴くことができ、漠然とした職業観のまま参加した生徒は、医師や看護師が患者の病気や怪我を治すことは勿論、そのご家族への精神的なサポートもしていることを知るきっかけとなりました。また、現場の看護師さん達は、白衣を着用せずにカラフルなチュロキー着用して、少しでも明るい気持ちで小児患者へ接するよう心掛けていたり、外来担当の看護師さんは、小児患者とより良い関係を築くために注射をしないなど、その細かな配慮を知って自身が目指す職業への理解を深めることに成功しました。加えて、こども病院ならではの役割と言える、“チャイルドライフスペシャリスト”と呼ばれる子ども療育支援士の存在を知り、小児看護におけるチーム医療を生徒なりに理解することができました。そして、イベントの最後には勤続2年目の看護師さんとお話をする機会があり、その看護師さんの進路決定までの道のりや医療現場で働くことの苦労を伺うことができました。

今回のイベントを通して、参加した生徒はより一層進路実現へ向けてモチベーションを向上させることができましたようです。高校生の時から一貫してこのようなイベントに参加することは、推薦試験での口頭試問や、小論文において自分にしか語れないエピソードを作ることができるだけでなく、生徒諸君の職業観、就労観を養う絶好の機会です。やらされる学習から自らの目標を実現するため学習への転換もさることながら、使命感を持った医療人になるための動機付けがなされるイベントには積極的に参加して欲しいと思います。

茨城県立医療大学出張模擬授業

平成26年5月26日 茨城県立医療大学の医科学センター、作業療法学科、看護学科の先生方にご来校していただき出張模擬授業が行われました。
教授 馬場健先生「医師になるために必要なこと」
准教授 沼口恵子先生「対象の理解と看護」
助教 藤田好彦先生「作業療法って何だろう」



～作業療法の授業を受講した生徒の感想～

「3人に1人が高齢者になるなんて！」
お年寄りが増え続けている世の中で、今必要とされているのは、より多くの医師です。(茨城県は医師の数が全国46位) 私は、「リハビリ」という言葉を聞くと、病院で白衣を着た人が指導を行うものだと思っていました。でも、地域社会全体で行うものを知って、やはり身近の人との関わりは大切だなと思いました。私は、今までに作業療法士という言葉は聞いたことはあったものの、具体的には知りませんでした。障害の持ってしまった人が今まで通り生活できるようにするために、体力的にも精神的にもケアをしてあげることがとて



もすてきな仕事だと思いました。私の家でも、足腰が弱いおばあちゃんの為に壁をたたいて手すりを付けてあげたり、安全なイスを用意してあげたりしました。やはり、本人がやりたいことをできるようにしてあげることで本人のモチベーションをあげて生きることを楽しませてあげることが大切だと思いました。(Yさん) 作業療法の藤田先生がおっしゃっていた言葉で「患者さんに明日が来るとは限らない、だから今日やろうと決めたことは今日やる。」が印象に残りました。命を預かるものとして責任が伴うことを生徒達は改めて実感したようです。

～医科学センターの馬場先生の授業を受講した生徒の感想～

私は医師の世界は厳しいものだなと思った。なぜなら、医師をとりまく環境が、決して良いものとは言えないからである。医療の世界は「きつい」「汚い」「危険」の「3K」の世界と言われているらしい。休みは自由に取れず、日常的に死と向き合い、血液などを取り扱う…。

こうやってみると、医師という仕事はかなりハードな仕事だと言える。私が一番嫌だなと思ったのは医療ミスを真っ先に問われるのが医師であるということだ。あたり前と言えば、あたり前なのだが、ハードな仕事に加え大きな責任というのはかなりプレッシャーでもあり、ストレスにもなると思う。

さて、ここで自分に質問をぶつけてみようと思う。「それでもあなたは医師になりますか？」答えは…YESである。なぜなら人を助けることが好きだからである。だから学級委員長にも立候補したし、ボランティア活動も沢山やってきた。もし、医師が人を助けることを考えていなかったらどうだろう。それは間違いなく失格である。人を助けることが好きでなければできない仕事だと先生もおっしゃっていたからである。そういった意味では、厳しくともやりがいのある仕事なのではないだろうか。話は変わるが、今回の授業で印象に残った言葉があった。「医者には必要ない。ないと患者さんが怖がるからついているだけだ。」というものだ。

先生は「医師になるために天才的な頭脳はいらない」という意味でおっしゃったのであろうが、私はこの言葉に別のものを感じた。それは「第一に患者さん」ということである、先ほどの理屈から言えば「医師は頭がなくてもできる」ということになる。しかし、その後に「患者さんのために」という、患者さん目線にたった言葉がある。人とのコミュニケーションが大事な職業であるが故の言葉なのだな、と私は感じた。(Tさん) 医師の報酬が高いのは、それだけリスクがあることや、仕事は人の死に向き合う過酷なものであること等、医師の使命について気が付かされたようです。



2年生総合学習発表会

平成26年7月18日に総合学習発表会を行いました。今回は2年生が興味のある

テーマについて自由に調べ学習をし、1年生にパワーポイントを用いて発表しました。活発な質疑応答が行われ、1・2年生の交流がさらに深まりました。研究テーマは以下の通りです。

1組	2組
1班 感染	1班 金縛りについて
2班 ストレスについて	2班 乳酸菌について
3班 Da・Vinci	3班 夢について
4班 3Dプリンターと医療	4班 正露丸について
5班 エウロパ～生命の神秘～	5班 モスキートーン
6班 感情による心身の変化	6班 ダイエット
7班 マクドナルドのメニュー	7班 血液型分析
	8班 最新医療技術 人工心臓



推薦図書

「アルジャーノンに花束を」ダニエルキイス著

この作品は、アメリカの作家ダニエルキイスにより1966年SF長編小説として発表された。後テレビドラマや映画にも取り上げられた。1966年ネビュラ賞受賞作。主人公、パン屋の店員チャーリー・ゴードンは32才にも拘わらず幼児の知能しかない。その彼に大学の優秀な教授から頭を良くしてくれるという夢のような話が来た。彼は、喜んで承諾し、白ネズミのアルジャーノンを競争相手に、検査の毎日を送る。手術により天才的な知能を身に付けたチャーリー。しかしながら・・・驚異的な知能を身に付けた青年の喜びと悲しみ、苦悩が描かれた名作です。「ついしん。どーかついでがあったら、うらにわのアルジャーノンのおはかに花束をそなえてやってください。」最後の一文は読者の心に響きます。(ダニエルさんは今年6月に86才で死去)

9月の行事予定

～ 9月 ～

1日 (月) 始業式	16日 (火) WT (2年:英, 1年:数)
3日 (水) 河合塾模試 (1, 2年)	19日 (金) ベネッセ駿台マーク (3年 20日まで)
5日 (金) 一斉指導	22日 (月) WT (2年:国, 1年:英)
6日 (土) センター出願指導 (3年)	23日 (火) 秋分の日
スクールクリーンアップデー (2年)	24日 (水) 衣替え移行期間 (10月7日 まで)
8日 (月) WT (2年:数, 1年:国)	26日 (金) 1日 HR
11日 (木) MT (12日まで)	27日 (土) センター出願締切 (3年)
12日 (金) 修学旅行事前指導② 救急救命講習	29日 (月) WT (2年:数, 1年:国)
15日 (月) 敬老の日	30日 (火) 避難訓練 (地震)

医学部志望者対象講演会

平成26年7月5日に東京にある医歯専門予備校メルリックス学院院長の田尻友久先生による講演会がおこなわれた。「最短距離で目指す医学部進学」というテーマで、大学入試の現状や医学部入試でどうすれば合格を勝ち取ることができるかなど詳しくお話し頂き、大変有意義な時間を過ごすことができた。終了後の生徒からも、この講演会の内容で得たことを今日から勉強に活かしていきたいと感想を述べていた。